

1、今年度の活用目標と活用状況

◆弱視研究部として

活用の目標は、弱視の幼児・児童・生徒にとって、視知覚の向上に関するアプリを見つけ、拡大して利用できる効果的なアプリを授業に活用していくこと。また、活用状況としては、学期ごとに小学部、中学部、普通科と回しながらそれぞれの学部で実態にあったアプリを利用している。

◆図書館として

図書館での活用の目標は、主にマルチメディア DAISY 図書と電子書籍を拡大機能や反転、読み上げ機能を活用して利用することである。

図書館では、iPad コーナを設置し、いつでも図書館で利用できるように設置している。電子書籍やフラッシュカード、知育アプリ、音声付きの辞書として図書館を訪れる幼児・児童・生徒が活用している。

2、現在活用しているアプリケーションについて

①フラッシュカード

○フラッシュカード

白地に黒文字で表示されるので、弱視の児童・生徒にもとても見やすい。ひらがな・カタカナ・すうじ・アルファベット・漢字の文字カードの他にも、のりもの・くだもの・やさいカードなどがある。幼稚部では、弱視の幼児にくもん式カードと同じようにして利用している。また、切り替えの速度や読み手の音声などを設定で変更することができるので、子どもの実態に応じて設定をかえている。



②知育アプリ（色、形、数、時計など）

○知育プラス

○時計の学習

幼児や重複障害の児童・生徒のための知育教材として利用している。数・色・形などの形成概念の理解にもとても役立っている。その他にも時計の学習や、足し算、引き算など多種多様の知育教材を利用している。正解すると音が鳴るものなどは、幼児・児童にとってとても魅力のあるようだ。また、弱視の幼児・児童は書見台を利用して活用している。



③ 線なぞり（動体視知覚訓練として）

○ナゾルート

○なぞってみようHD

線をなぞった後に、動物や車が動いていく。それを目で追っていくことで動体視知覚訓練して利用することができる。その際、頭を固定して眼球を動かしながら追っていくように配慮が必要である。

④ マルチメディア DAISY

Voice of DAISY(VOD)を使えば簡単に DAISY 図書やマルチメディア DAISY を再生することができる。マルチメディア DAISY 教科書としても利用することができる。設定で読み速度や背景など変更ができる。読んでいる部分をハイライトしているの、弱視の児童・生徒にはわかりやすい。

⑤ 文字の取得

○ひらがななぞり

○カタカナなぞり

○漢字チェック

ひらがな、カタカナ、漢字の書き順の練習が拡大で行えるので、弱視の児童・生徒には書き順などを覚えるアプリとして活用している。タッチで何回か練習した後に、実際に鉛筆で書くことができた児童もいる。



⑥ 電子書籍として

○こええほん

○絵本

○電子書籍

電子書籍は、設定で横書き・縦書きの変更やフォント体、フォント数、行間、背景色の変更ができるので、子どもの実態にあった読みやすい表示で読むことができる。また、絵本の挿絵なども画面をタッチすることで、拡大できるので細部が見やすい。羞明のある生徒は、反転機能を使い利用している。



⑦ 音の出る図鑑として

○サウンドタッチ

写真や画像の絵が鮮明で、弱視の幼児・児童・生徒にはとても見えやすい。また、乗り物や動物、楽器の音もなるので、全盲の生徒も音のでる図鑑として利用している。

